

## 理事長就任挨拶

佐藤 郡衛

このたび、理事の改選に伴い理事長に選出されました。2002年～2003年度に一度理事長に就任しましたので、今回は再登場です。当時とは、社会状況、本学会を取り巻く環境も大きく変わっていますので、心機一転、学会発展のため尽力したいと考えています。

最初の理事長職の時代には、会員への質の高いサービスの提供と学会の研究水準を上げることが目指しました。それ以降、歴代の理事長のもとで多様な取り組みがなされ学会も発展してきました。ただ、学会のあり方について改めて考え直す必要があると感じています。いま、学問や研究は、市場主義原理の導入により、業績がないと就職や昇進ができない、あるいは学位が取得できないといった事態が生まれています。これにグローバルスタンダードも加わり「容赦なき業績主義」が進行しており、学会は個人の業績づくりの場になっているようにも感じています。こうした現状の中で、研究の共同性をどのように確立するかが問われています。つまり、会員が相互に高めあうような専門性の共同体づくりを進めることです。そのための手立てを考えていく必要があります。

横田元理事長、加賀美前理事長のもとで異文化間教育学大系の全4巻を刊行しました。本学会の研究成果をとりまとめ、その成果を世に問うていますので、これを踏まえ、さらに学会としてのこれからの研究課題を明確にしていく必要があります。会員のみなさんとこうした課題を共有できる場をつくりたいと思っています。また、会員のみなさんがさまざまな役割を担い実際に活動することで、学会を維持することに貢献できるようにしていくことも重要な課題です。このため、ベテランのみならず、若手、中堅層が共に活動できるような取り組みを推進していきたいと思っています。

また、本学会は多文化社会で生じる多様な社会的課題にも対応してきましたが、世界の趨勢はいわばナショナリズムへの回帰といった状況になっています。世界各国で移民排斥運動も激しさを増しているようにも思います。楽観的で理念的な枠組みでは対応できなくなっています。こうした時代状況にあって、本学会の真価も問われています。いま何をなすべきか、どのような課題の解決に貢献すべきかを会員のみなさんとともに、考えて、行動にうつしていきたいと思っています。

最後に、学会の活動はすべてボランティアです。みなさんの協力なしには活動はなりたちません。それぞれ本務などもあるかと思いますが、ぜひ、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。